

# 建築 粘り強く最適解を

今回ご紹介する当校の修了生は、有限会社アトリ工建築

ついでいます。

設計室（大館市根下戸町）の吉原奏太さんです。吉原さんは令和四年三月に当校の専門

課程住居環境科を修了後、同社へ入社し、住宅に限らず様々な建物の設計業務に携わ

っています。吉原さんは高校時代から建築に興味を持ち始め、さらに将来は地元である大館で就職をしたいと考えていました。

間で一五六単位を学ぶカリキュラムの約半分が実習で、木造建築物の制作や、コンクリート及び鉄筋の破壊試験、CAD・CGなどのコンピュータを用いた実習を行いました。中には苦手な測量実習もありましたが、仲間助けながら乗り切ることができたそうです。

短大の二年間を終えた後、さらに応用課程で実践的・専門的な知識を学ぶより、就職して現場での経験を重ねたいと考えていた頃、短大宛てに設計希望の生徒を一人募集している事務所があるとの情報を得ました。そして夏季、冬季に短期間のアルバイトとして設計業務を体験させてもらった事が今の職場に入ったきっかけとなりました。

それから社会人三年目を迎える吉原さんに、現在の仕事と今後の目標について伺いました。

Q：現場における「やりがい」や仕事をしていて良かった、建て主様や大館さんに納得していた点や教えたこと、根気強さが必要だと実感しています

そこで就職率が高いと評判だった秋田職業能力開発短期大学校の住居環境科へ進学を決めました。当校では二年間の課程を終えた後に進学、就職を選択することができるため

進路選択のタイミングに余裕が生まれ、熟考することができたそうです。

短大時代は建築の基礎から応用まで幅広く学ぶ忙しい日々を送っていました。二年

卒業研究では授業で得た知識を生かしてコンペに挑戦しました。初めてコンペに挑戦する中で、授業で触れていないソフトを使用したり、凡庸な発想からの脱出に悩むことなど様々な障壁があったそう

ですが、そうした中で試行錯誤を繰り返しながら最終的に納得のいく作品を作成し、充実した時間を過ごすことができました。

短大の二年間を終えた後、さらに応用課程で実践的・専門的な知識を学ぶより、就職して現場での経験を重ねたいと考えていた頃、短大宛てに設計希望の生徒を一人募集している事務所があるとの情報を得ました。そして夏季、冬季に短期間のアルバイトとして設計業務を体験させてもらった事が今の職場に入ったきっかけとなりました。

Q：三年後の目標、十年後の目標それぞれについて教えてください。

短大時代は建築の基礎から応用まで幅広く学ぶ忙しい日々を送っていました。二年

卒業研究では授業で得た知識を生かしてコンペに挑戦しました。初めてコンペに挑戦する中で、授業で触れていないソフトを使用したり、凡庸な発想からの脱出に悩むことなど様々な障壁があったそう

ですが、そうした中で試行錯誤を繰り返しながら最終的に納得のいく作品を作成し、充実した時間を過ごすことができました。

短大の二年間を終えた後、さらに応用課程で実践的・専門的な知識を学ぶより、就職して現場での経験を重ねたいと考えていた頃、短大宛てに設計希望の生徒を一人募集している事務所があるとの情報を得ました。そして夏季、冬季に短期間のアルバイトとして設計業務を体験させてもらった事が今の職場に入ったきっかけとなりました。

それから社会人三年目を迎える吉原さんに、現在の仕事と今後の目標について伺いました。

Q：現場における「やりがい」や仕事をしていて良かった、建て主様や大館さんに納得していた点や教えたこと、根気強さが必要だと実感しています

Q：三年後の目標、十年後の目標それぞれについて教えてください。

### 有限会社アトリ工建築設計室

## 吉原 奏太さん

秋田職能短大 住居環境科  
(令和三年度修了)



住宅のプランニングをしている吉原さん

Q：現場における「やりがい」や仕事をしていて良かった、建て主様や大館さんに納得していた点や教えたこと、根気強さが必要だと実感しています

Q：三年後の目標、十年後の目標それぞれについて教えてください。

A：「どんな仕事内容でも一回で上手くいくことはない、という事を学びました。そのため何事も根気強く取り組む必要があると感じています。最初に最適解を提示するつもりで仕事に取り組みますが、建て主様の意向や現場の変更、誤りなどによって当初の予定とは大きく異なることもあります。そのような時でも現状から可能な最適解を探し出すことが求められ、また、建て主様や大館さんに納得していただかなければならないため、根気強さが必要だと実感しています」

A：「入社二年目の年に、二級建築士を取得することができましたので、三年後は一級建築士を取得することが目標です。そして十年後はデザイン力、構造の知識、法律の理解を向上させ、現場管理などを一人で行うことが目標です」

そのように語る吉原さんの表情は、学生時代とは違う輝きを持っていました。その輝きをいつまでも忘れず、そしてさらに磨きをかけて地元の大館を明るく照らしてくれることを願っています。

秋田職業能力開発短期大  
学校 住居環境科  
講師 小林 健